

No.659 (改題619号)
2025年
1月22日(水) 合併号

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所：新社会党

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

写真は2024年の活動から。右上から時計回りに、①5・3兵庫憲法集会＝5月3日、神戸市中央区、②パートアクション＝3月3日、神戸市中央区、③王子プールをなくすな！七夕行動＝7月7日神戸市灘区、④ガザに平和を！市民デモ＝6月30日、神戸市中央区、⑤知事の辞職を求める県民デモ＝9月8日、神戸市中央区



2025

参院選で自公政権打倒・政治の大変革を 「かい正康選挙」で護憲共同と民主主義・人権の再生を

人間の命と尊厳が優先される 新しい時代に道を開く年に



新年のごあいさつ

新社会党兵庫県本部

委員長 あわはら 富夫

(神戸市会議員)

一昨年5月に新型コロナウイルスが「5類」に移行したことによってコロナ禍の規制も緩和され、日常生活も元に戻りました。しかし、昨年の元旦に能登半島地震が発生。その後、9月には豪雨が襲い、政府・自治体の対応の遅れもあって、未だ復興への道筋が見えない状況です。能登は私の郷里でもあり、私自身、関西での「ふるさと会」などを結成し、支援の取り組みを行なっていますが、民間支援にも限界があり、国の抜本的な対策が必要です。

一方、世界を見ると未だにロシアのウクライナへの戦争は続き、パレスチナのガザ地区では停戦合意がありながらも、イスラエルからの攻撃が続いています。「戦争」は、起これば簡単に止められないことが改めて明らかになっています。「戦争」による「解決」は、結局、普通の人の暮らしを奪い、最後はジェノサイドに至ることが誰の目にも明らかです。「戦争」をいかに避けるかが安全保障の基本になるべきです。そのためには近隣諸国との友好を日常から図ることが求められます。

ノーベル平和賞が昨年、日本被団協に贈られたことは、「核による力の均衡」でなく「核廃絶」が世界の潮流になっていることを証明しました。しかし、新しく発足した石破政権も依然として「敵基地攻撃能力保有の43兆円の防衛費」そして「核兵器禁止条約の批准に応じない」姿勢で、「軍拡と核均衡論」の立場を取り続けています。

しかも、金権腐敗の温床になっている企業団体からの献金については認めざる立場であり、裏金問題から始まった政治の浄化の課題は、石破政権では期待できないことが明らかです。

昨年の総選挙で自公政権は少数野党に転落しました。今年は参議院選挙です。新社会党は、かい正康さんを社民党の比例区候補として参議院選挙を戦います。かい正康さんを当選させることに全力を挙げましょう。

昨年を象徴した漢字一文字は「金」でした。政治は真「金」で揺れ、オリンピックの金メダルや被団協のノーベル平和賞の金塔は人々に喜びを与えました。暗い裏「金」と明るい「金」、対照的な1年でした。しかし、今年の漢字一文字は「脱」にしたいものです。「脱原発」であり、「貧困からの脱出」、「差別が蔓延し、人権が踏みじられる社会からの脱出」です。

今年の干支は巳です。私は、年男で始める時期を意味し、「止む」の意味の「巳」で、草木の生長が極限に達して次の生命が作られ始める時期、まさに旧時代から新時代が来たということの意味するようです。参議院選挙でのかい正康さんの勝利を第一歩に、拜金に象徴される古い体制から脱皮して、人間の命や尊厳が優先される新しい時代に道を開く年にしましょう。

水脈

自然は、お正月だからといって安寧を与えてくれない。去年は元旦に能登半島地震、今年は年明けから東北や北陸で災害級の大雪が続く。ロサンゼルスでもかつてない規模の大火事だ。自然には抗えないものだけれども、制御可能な人間の手によって新年早々から悲劇が繰り返されているのがパレスチナ・ガザ地区だ。元旦から避難地域にイスラエルの攻撃を受け、犠牲者が出た。15か月に及ぶイスラエルによるジェノサイドです。少なくとも4万5千人の命が奪われている。イスラエルの空爆は、レバノン、イエメン、シリアにも及び、国際法などは全く無視である。親イスラエルのトランプ氏が大統領に就任したあと、中東はどうなるのか、懸念はさらに深刻になる。▼大統領再選時から、今後ともないことが起きるだろうとは予想されたことだが、すでにそのことが起き始めている。例えば、パナマ運河の管理権を取り戻し、デンマークの自治領グリーンランドの獲得のためには軍事行動や、関税を武器に経済措置も辞さないことを明した。カナダに対しては、合併して「51番目の州」になるべきだと公言する。荒唐無稽な話にも聞こえるが、世界の不安定性と混迷が増大するのは間違いないであろうのか。

私の主張

2025年・年頭に思う

私の主張

ノーベル平和賞受賞を糧にして



兵庫県原爆被害者団体協議会
理事長 立川重則

昨年の日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）のノーベル平和賞受賞に際しましてはたくさんのお祝いの言葉をいただき誠にありがとうございます。

私も被団協事務局から式典への参加の打診を受けたのですが、ひざ痛もあり辞退しました。

中継を見ておられますと厳かな式典の中に被団協の見慣れた顔が次々に映し出され、無理しても行けばよかったかなと思ったりもしましたし、出席した人は今までに経験した事のない感激を味わったことでしょう。

田中熙巳代表委員の受賞あいさつも被団協の歴史、そして被爆者の思いを端的に述べ、全体として良かったと思います。

昨年アメリカではトランプ氏が大統領に再選され、色々な方面に大きな影響が出てくるものと思われ、被爆者やロシアとウクライナの戦争はすぐにも終わらせることができると思っています。どのような手法があるのか注目したいと思います。

難しい課題・問題が山積のままの新年を迎えることになりました。

なかでも核兵器問題は喫緊の課題です。ロシアのプーチン大統領は核兵器使用のハードルを下げると言っており、核兵器の先制不使用を覆し、たとえ相手が核兵器を使わなくても場合によっては使うというものです。

今や核の傘は破れ傘と言われ、役に立たないものとされています。なぜなら、今は前述のロシアのよう

に先制攻撃に使う考えが主流になりつつあるからです。

しかし核のタブーではありませんが、西も東も同盟国を持っていて反撃をしますからうかつに核兵器を使うわけにはいかないということになります。

原子爆弾の開発に関わったアインシュタインの言葉に「第3次世界大戦では分からないが、第4次世界大戦では人間は多分石をもって投げ合うだろう」というのがあります。アインシュタインは、ナチスドイツの原爆開発を恐れ

てこれより先に開発するようにアメリカのルーズベルト大統領に進言しました。後日、この原子爆弾が広島・長崎に投下されたのを知り、自責の念にさいなまれ、その後は世界から核兵器をなくすべきだと主張したようです。

いま、終末時計は90秒を差しています。これには最近とみに顕著となってきた気候変動などの要素も含まれます。自然相手は避けようもない場合があります。

これに対して、核兵器をなくすには人間の話し合いによってどうにかするはずののだと思います。核と人間は共生できません。まだ核兵器国は一国も参加しておりませんが、核兵器禁止条約は非常に良い内容の条約です。署名活動などで多くの国が参加するように諦めることなく活動を進めていきたいと思います。皆様もぜひご協力ください。

戦後80年を平和をつくる年に



神戸平和マップを作る会
事務局長 小城智子

2025年、あの長い戦争の時代が終わって80年を迎えます。日本は、1867年の明治維新以後、国内から、台湾、朝鮮、中国、アジアと戦争を続けてきました。1945年9月から日本が戦争をひき起こし戦うというこ

とはなくなりました。しかし、ロシアとウクライナの戦争やイスラエルのパレスチナ・ガザへの植民地化への戦争、アフリカ諸国の内乱と、世界では戦争は続いており、飢えと貧困に苦しむ人々が次々とつくり出されています。平和憲法に守られてきた日本も、アメリカに追随して新たな一歩を踏み出しかねない軍備増強の動きもあります。

「平和な社会を一緒につくろう」と、学校で子どもたちに呼びかける時にも躊躇する思いがあります。「神戸空襲を記録する会」前代表の中田政子さんは、イラク戦争やアフガンへのアメリカの攻撃の時に「子どもたちに嘘を伝えて

尼崎2025！いちのせ剛と共に



憲法を生かす会尼崎
事務局長 いちのせ剛

ご支援に心より感謝します。私、いちのせ剛が尼崎市に挑戦することを決めてから早くも2年半が経ちました。郵便屋として働きながら（組合役員もやっています）、地域を回って様々な声を聞いています。

衆議院選挙、兵庫県知事選挙と2024年は慌ただしく過ぎ去り、2025年の新しい年を迎えました。国政では「政治と金」の問題で与党が過半数割れし、兵庫県知事選挙では限りなく事実関係を無視したストーリーがSNSを飛び交う「ポスト真実」の選挙と言っても過言ではないものでした。

コロナ禍での生産減少、戦争などによる不安定化による世界的なインフレ、円安による生活必需品の物価高騰が私たちの日々の生活を脅かしています。今までの政治・社会の基盤が大きく変

化していることは間違いないと思います。世界的にも排外主義・ポピュリズムが広がっています。世界情勢と日本の政治、日常生活、これらは鎖のようにつながっているものだと思います。だからこそ政治を語り、生活を守ると同時に、より良く変革していかなければならないと思います。

私はこれまで労働運動に関わってきました。平均的な労働者の生活も、労働基準法や解雇規制、社会保険、労働基本権などの社会による「保障」があつてこそ成り立っています。「既得権」と言っても様々な権利を破壊することは社会をバラバラにします。「改革」を称する政治が結局のところ、あらゆる問題を資本の論理に従って処理し、公的なものを私有化することの繰り返しでした。少なくとも私は、それに対し

の加害の歴史と、空襲や原爆という今につながる民衆の大量虐殺の歴史を語り継ぐには、戦争遺跡がますます大切なものになっていきます。神戸は震災で壊れてしまったものも多いのですが、そこを残したい、また、説明できるものがほしいのです。そのためには、この場所が何があったのか、多くの方に知っていただくことが重要です。

幸いにも、このような戦争遺跡の案内を求める声も、教職員組合をはじめ労働組合、生協運動関係者、市民団体の声に応え広げられるにもっと多くの若い人の力が必要です。今、平和マップのホームページに携わってくださる仲

を言い続けていこうと決意しています。

行政においては委託業務が多くありますが、過当競争により委託費が低く、これが労働者の賃金を低く抑える傾向にあります。尼崎市でも「公共調達基本条例」という公契約条例があります。しかし、そこには賃金条項が入っていません。賃金条項を入れることを求めていくべきです。

われわれに何ができるかということをお考えください。世の中のことばのままならぬ、不条理は常にそこらに溢れて、多くの権力や生産手段・財力は一部の人間の手にあります。それにもかかわらず、固い岩に穴をあけるような政治的行為がなければ、たとえ蝸牛のように遅くても少しずつ前進する大衆運動がなければ、何も変わらないことは確かです。

尼崎は労働者の街でした。その政治・文化を、つぎ徳昭尼崎市議が5期20年間守りぬいてきました。私の世代が新たな労働者階級の政治を守り抜かなければいけない、そのための議会に送り込んでください。共に闘いましょう！

間や、紹介の動画を作ってください。若い人が見つかりました。そのおかげで、今以上に戦跡ウォークの取り組みに関心を持たれ情報が寄せられることも出てきました。

神戸空襲を記録する会でも、戦後80年の今年、若い世代に継承するために、米軍が戦後に写した画像の解析など見てわかるコンテンツを取り組みたいと、そのためにシンポジウムをやろうとしています。平和マップを活用して、夏休みに図書館で平和学習のワークショップを若い世代の協力を得てやってみようという取り組みも企画中です。

皆様のご参加と周囲への呼びかけのご協力を願っています。

2025年・年頭に思う

私の主張

初めて但馬に入った、かい正康さんがスーパー前で街頭宣伝＝2024年11月28日、豊岡市



2025年新春対談

参院選へ全力疾走

かい正康 新社会党 市民運動委員長

岡崎彩子 新社会党兵庫県本部 書記長

今年も参議院選挙の年。7月の参議院選挙に向け、新社会党は、かい正康さん(新社会党市民運動委員長)を社民党の比例区候補に擁立して闘うことを昨年4月の全国大会で決定し(社民党もすでに推薦を決定し公表)、かい正康さん自身もそれに従って、全国を走り回って選挙準備を進めてきた。新年を迎え、かい正康さんと岡崎彩子・新社会党兵庫県本部書記長がオンラインで対談した。



強く印象に残るとすれば、皆さんのそんな思いです。岡崎 そうですか。私たちももっとがんばらないといけないということですね。これから選挙がさらに近づいてきますが、自分が訴えたことの中で反応が多いことや、もっと強く訴えたいことは何でしょうか。かい やはり市民の皆さんの生活に根ざしたことを訴えている時が最も反応が多いです。消費税や奨学金、年金のことなどを訴えていると必ずといっていいほど街行く人々からの反応があります。当たり前ですが、人々の生活は苦しいんだ、という

岡崎 明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。早速ですが、参院選の予定候補となつてすでに半年以上。全国を回ってこれましたが、どんな感じをつかんでいますか。かい おめでとございます。こちらこそよろしくお願ひします。今までは仕事上、自らハンドルを握りトラックで全国を回っていました。が、今までは当然全く違う形で、しかも選挙の予定候補として全国を回らせていただくということもありません。よく新社会党は「小さい政党」と言われることがあるかと思いますが、自分はいくつ小政

に常に誰かが付いていてくれて全国を回らせていただいていることに驚きました。トラックの時は全国どこに行くのにも一人だったので(笑)。けれど考えてみればそれはそうなのかもしれません。自分は予定候補として振る舞わなければいけない。こういう立場に立たせていただいた以上、自分に何かがあつて

政治に現場で働く労働者の声を

方々とお会いして、新社会党の旗印である「平和・人権・環境・正義」を頑なに守り続け、筋を通している皆さまの思い、そしてその旗印を国会に立ててほしい、という強い思いを感じます。自分のような人間に期待をしていただいている、その期待に絶対に応えて皆さんの思いを叶えたい、と気持ち日々強くなりま

はいけないし、今までのように好き勝手に振る舞うわけにはいきません。そういう自分の中で、気持ちの変化がまず印象に残っています。他には、先ほどの答えと被るかもしれませんが、全国どこに行っても必ず党員の方がいらっしゃる、その方々が自分なんかをとても暖かく迎えてくれる。そして、絶対に当選してほしい、新社会党の旗印を掲げて国会に行つてほしい、という思いがどの方々とお会いしても強く感じるところです。行く先それぞれで党員の皆さんとお会いし、印象に残った出来事やお話を訴えるというこ

岡崎 うれしく、勇気が湧いてくるいいお話ですが、その中で、より強く心に残っていること、より強く印象に残っていることはいまほどありません。まず、自分なんか

のを強く感じます。これからもっと強く訴えていこうと思つていることは、やはり自分は労働者なんだ、ということですね。今までは、自分や父のような、トラックドライバーや左官業のような現場で働く労働者の声を無視してきたと思います。そして、それと同様に、医療や介護、福祉や教育現場などに従事するエッセンシャルワーカーの方々の声も無視してきました。私たちのような労働者がいなければ社会は回りません。そして、自分が現在強く訴えている在日米軍の問題です。在日米軍の問題を訴えるというこ

かい正康 がんばれ! サポーターズの集い
●2月12日(水) 18:00~
●長田区文化センター・講習室1
●参加費無料
(主催) 新社会党兵庫県本部

井上力さんを偲ぶ会
●2月16日(日) 14時~
●王子動物園ホール(JR灘駅から北へ約7分、阪急王子公園駅から西北へ5分)
ひょうご社会主義ゼミナール
●2月22日(土) 13時~16時
●兵庫県文化センター・講習室
●「T・ピケティ」資本とイデオロギー」を読み解く」若佐卓也さん(専修大学教授) 参加費 500円

参院選 かい正康を先頭に
新社会党中央執行委員長 岡崎宏美



能登半島地震から1年。生活の基本的な復旧さえ未だに進まない集落もあるといひます。今年、あの阪神・淡路大震災から30年を迎える兵庫の私たちが、2011年の東日本大震災の衝撃とともに、なぜ私たちの国は、ここまで人の暮らしを軽んじているのか、繰り返す政治を許してきたのかと忤怍たる思いです。自治体合併を推し進め「効率化を図った結果、いざという時に被害に对应できる職員が圧倒的に不足し、他の自治体からの応援やボランティアを組み込んで追いつかない現状は、日常から医療・福祉・教育など人間らしい生活の基盤を保障する体制が不十分なので、暮らしては、憲法が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とは、こんなに軽いものでよいのでしょうか。震災を経験した私たちに問いつける責任があるはず。ロシアによるウクライナへの侵略戦争、イスラエルによるガザへのジェノサイド。多くの犠牲者を出し、戦火の拡大は世界に不安定さを増しています。武力や武力を抑止力として高めるといふ政策は誤りであると、世界の現実が示しています。しかし、不安定な世界を奇貨とするように、日本では軍事力を強化する政策がまかり通っています。「安保三文書」による軍事費の拡大が進み、沖縄・南西諸島の要塞化、日本全国の港湾、空港などを軍事使用可能にするなど、戦争する国づくりが進んでいます。石破新政権は「GDP2%で固定して考える問題ではない」と発言するなど、いっそうの軍事費増額が目論まれています。軍事予算の拡大をはか

平和・人権・環境 今こそ憲法を 暮らしに生かす

各地の憲法を守り生かす運動団体の活動紹介

毎月13日に「憲法アクション」

憲法を生かす須磨区の会



毎月13日の「名谷憲法アクション」でマイクアピール＝神戸市・須磨区

憲法を生かす須磨区の会では2022年8月から、毎月13日を「名谷憲法アクション」として、法アクションとして、名谷の街頭でチラシを配布しマイクで訴える宣伝

行動をしている。なぜ13日に行うことにしたのか。それは、日本国憲法第13条が日本国憲法の土台だと考えるから。「すべて国民は個人として尊重される」とこの条文が私は大好きだ。日本国憲法の3本柱の1つ目、「基本的人権の尊重」。それは、個人を尊重するからどんな人の基本的人権も尊重することになる。2つ目。「国民主権」は、個人を尊重するから一人一人の政治に対する

行動をしている。なぜ13日に行うことにしたのか。それは、日本国憲法第13条が日本国憲法の土台だと考えるから。「すべて国民は個人として尊重される」とこの条文が私は大好きだ。日本国憲法の3本柱の1つ目、「基本的人権の尊重」。それは、個人を尊重するからどんな人の基本的人権も尊重することになる。2つ目。「国民主権」は、個人を尊重するから一人一人の政治に対する

憲法を生かす会・ひょうごネット

県内各地の憲法を生かす会などで構成し、紙面で紹介した4団体も同ネットに属する。隔月で運営委員会を持ち、情報・意見交換などで交流している。

は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあるのに、政府は能登半島地震の被災者たちを切り捨てている。マイナ保険証も、介護保険改悪も、コロナ対応も政府のしていることは憲法違反ではないだろうか。「日本国憲法は素晴らしい。小さな声だが、そんなことを今年も街に出て訴え続けたい。」(佐野みさ子)

毎年の写真展開催に注力 憲法を生かす北区の会



今年の写真展はウクライナ戦争をテーマに。撮影者のトークも持つことができた＝神戸市・北区

憲法を生かす北区の会は、スタンディング行動、憲法カフェや写真展の開催などを主な活動として取り組んでいる。学習会や行動の報告、集会の案内などを載せたニュース「カッセンひろば」は、82号を数えた。発行は不定期の年4回ほどで、約200人に郵送や手配りで渡している。会費は設けず、1年に1、2回の任意カンパで運営をしている。みなさんにご協力をいただいている八朔の売り上げも、貴重な財源となっている。

北区の会が特に力を入れているのが写真展の開催だ。新社会党が掲げる「平和・人権・環境」をメインに、毎年テーマを変えながらこれまで8回の写真展を開いてきた。昨年は、一日も早い停戦が望まれるウクライナの写真展を行った。3千枚のチラシを用意し、新社会

会役員や新聞読者、集会参加者への配布以外にも、近隣の施設や職場、行きつけの店などを回りチラシを置いてもらう取り組みを続けてきた。その積み重ねで、この写真展が地域の中に一定程度定着してきたと感じている。今回は例年より多い500人を超える来場者があり、ウクライナ戦争への関心の高さが窺われた。

今後の課題は、憲法を生かす北区の会の活動により広く、より多くの人に参加してもらうことだ。そのために、北区の会の取り組みの見える化とそれぞれの人の繋がりを大事にしなが、これからも活動していきたいと思う。

（渡辺修二）

学習会・街頭行動・憲法カフェ

憲法を生かす会・東灘

憲法を生かす会・東灘は、2014年6月に東灘地域にも「憲法9条を守る」運動を広げていくと区民を中心に結成した。今年11年目とまだ歴史は浅いが、毎月の例会、学習会、街頭行動、年2回の憲法カフェの開催、年3回の「憲法だより」の発行を継続してきている。街頭行動は、「9条を守ろう、軍拡NO!」を中心に訴えてきているが、一昨年のロシアのウクライナ侵攻をキッカケに「NO WAR」の思いから一般市民の参加が続いている。その方からとても元気をもらっている。昨年1、3月の街頭行動では能登半島地震被災者への寄付を「防衛費増大ではなく、税金は被災者に！」と募った。多くの方からの募金が集まり神戸新聞社へ届けた。

憲法カフェは昨年9月に第10回を「マイナ保険証の問題点は？」をテーマに開催。参加者が知りたかったこと、いま問題になっていること、伝えたいこと等をテーマに取り組んできた。毎回20、30人の参加者があり、「次も参加したい」との声を多くもらっている。今後も年2回の開催を地道に続け、地域に根ざす取り組みとして続けていきたい。

ニューズ「憲法だより」は1月にNO17を発行。①政治、②身近な生活問題、③戦争を語り継ぐ戦争体験記を掲載しているが、読んでもらえる内容が、読んでもらえる内容に広がってほしい。

にこだわって作成している。地域の人を中心に約200部を郵送と手配りで配布している。今後の課題は、会員の拡大、街頭行動・憲法カフェへの参加者を増やしていくこと。どうすればいいかの答えはなかなか出てこないが、前向きに取り組んでいきたい。

（新原三恵子）

毎秋に「平和を考えるつどい」

平和憲法を守る高砂市民の会

大江健三郎さんたちが「九条の会」を立ち上げた1年半後、その呼びか



秋恒例の「平和を考えるつどい」でDVDを観る＝高砂市

けに呼応する形で、「広範な市民団体と連携して日本国憲法の改悪を阻止し、憲法9条を守る活動を行う」を目的に掲げ、「平和憲法を守る高砂市民の会」が約100人の参加で発足。来年度20年になる。また、市民向けの宣伝月1回定例の世話人会議を持って当面の活動を協議・運営している。平和憲法を守るつどい」を月1回発行し、

常活動としては、会報『憲法を守る市民の会』を隔月発行し会員に郵送や手配りで届けている。憲法の学習と県下各地で護憲活動をする仲間との活動の報告等を含んでいる。

また、市民向けの宣伝月1回定例の世話人会議を持って当面の活動を協議・運営している。平和憲法を守るつどい」を月1回発行し、

（嶋谷数博）

非核神戸方式50周年記念

非核神戸方式を今こそ全国へ ワークショップ非核条例を考える 全国の集い

- 3月15日(土) 13:40~16:30
- 神戸市教育会館・大ホール
- 基調講演や特別報告など
- 参加費500円

※賛同募集中一問い合わせは現地は中村まで nsp-kobe@portnet.ne.jp

〈主催〉 非核条例を考える全国の集い 実行委員会

〈共催〉 憲法を生かす会・ひょうごネット

行事として行っているのが定期総会とその関連行事としての講演会やビデオの上映。また秋には「平和を考えるつどい」の名で講演会、ビデオ上映、フ

（嶋谷数博）

ビリョクだけどもリョクじゃない

高校生平和大使・兵庫の活動の紹介



昨年11月に対馬で行われた「日韓高校生平和交流in対馬」に兵庫からも参加

昨年10月、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したが、受賞理由のなかに、次世代に引き継ぐ取り組みを評価する言及があった。曰く、「日本の新たな世代は被爆者の経験とメッセージを引き継いでいる。彼らは世界中の人々を鼓舞し、教育している。そうすることで彼らは、人類の平和な未来の前提条件である核のタブーを維持することに貢献している」。

高校生平和大使は1998年、長崎市から活動が始まり、その年から現在まで、国連欧州本部の

訪問をはじめとして世界各地で、「核兵器廃絶と平和な世界の実現」を訴え、国内外に向けた発信を行っている。

高校生平和大使は、年に一度公募され、全国で選出される。

兵庫でも、高校生平和大使を支援する兵庫県実行委員会が結成され、今年で5年目を迎えた。当初、コロナ過と重なり多くの困難があったが、高校生たちの柔軟な発想と行動力、多くの人々の支えで、兵庫の平和運動の一角をしっかりと担うに至っている。

彼らの活動を報告する目的のLINEグループがあるが、今回、事務局の森哲二さんがLINEに投稿した内容を元に、森さんの了解を得て、本紙編集部が編集したもので彼らの活動を紹介した。【文責は編集部】

◇ 「高校生平和大使・兵庫」

8月にジュネーブに派遣された細谷美優花さん(小林聖心女子学院高校2年生)は、全国の高校生とともに、「核兵器の廃絶

も、被爆者の方々の声を大切に「核兵器の廃絶と平和な世界の実現」を目指して活動を進めてきたが、核兵器をめぐる世界が危険な方向に動き出している昨今、昨年はいじめ、海外派遣も含む多くの取り組みを行った。「フルウェー派遣」

6月に広島、長崎の高校生とともにフルウェーに派遣された藤井若菜さん(カナディアンアカデミー3年生)は、神戸市在住の被爆者、貞清百合子さん(神戸市原爆被害者の会)の思いをしっかりと伝え、多くの人にた

と平和な世界の実現」を訴えた。若者が世界にとって確実に必要で影響力のある存在であること、平和を訴えるためには「どんな世界を作りたいのか」を考える必要があること、様々な人と「対話」を重ね、同年代との交流を深めることの重要性を学び、今後の活動への思いを固めたとの報告がされた。

「日韓高校生交流in対馬」

11月に行われた「高校生平和大使・日韓高校生平和交流in対馬」に種田果恵さん(姫路東高校2年生)が参加。日韓各15人ずつ計30人の高校生が言葉や文化の違いを超え、朝鮮通信使の歴史から学んだ。「対馬になれ」「友だちのいる国と戦争したくない。だから、国を越



「日韓高校生平和交流in対馬」でのグループ討議の1コマ

えて友だちを作ることが大事」「歴史を作るのは私たち」などの言葉が交わされ、国と国だけの外交努力ではなく、民間交流の大切さ、特に若者たちの交流の重要性を学ぶ機会となった。

未来へ

「高校生平和大使・兵庫」は、全国の高校生平和大使の合言葉、「ビリョクだけどもリョクじゃない」の言葉のとおり、世界の未来に向けて、世界の未来に向けて若者たちの努力は続く。

改憲の動きをウォッチング

枝野会長の下で初の討議 立場の違い改めて鮮明に 衆院憲法審査会

衆院憲法審査会は12月19日、立憲民主党の枝野幸男会長の下で初の本格討議を行った。

審査会の冒頭に、法制局から2000年に憲法調査会が設置され、中山太郎会長のもとで、政局から一定距離を置いて運営する、少数派の発言権を保障するなど、いわゆる「中山方式」といわれる原則が打ち立てられた。四半世紀にわたる憲法論議の経緯が報告された。

討議では、自民党は改憲の優先テーマとして緊急事態時の政府の権限を定める「緊急事態条項」に関連して国会議員任期延長を主張。公明党、維新の会、国民民主、有志の会が同調した。

立憲民主党は、緊急事態条項よりも、2021年に成立した国民投票法の付則に明記されたテレビCMやインターネット広告を規制するための国民投票法の改正が最優先課題だと反論。そうでない場合は公正な国民投票は

不可能だと主張した。共産党は国民の多数が改憲を求めている。憲法を「解散あり得る」と国民民主・維新をけん制している。

政府は22年に策定した国家安全保障戦略で敵基地攻撃能力の保有を明記しており、大軍拡に向かつて23年、27年度の予算額を43兆円と定めている。25年度は3年目に当たる。艦艇発射型の「12式地对艦誘導弾能力向上」型の取得/潜水艦に搭載可能な垂直誘導弾発射システム研究費/英国、イタリヤと共同で進める次期戦闘機の開発費/米国から購入する長距離巡航ミサイル(トマホーク)/音速の5倍以上で飛行し、迎撃困難とされる「極超音速誘導弾」の製造態勢の拡充―など、敵基地攻撃能力の保有のための経費は、9390億円にものぼる。

辺野古新基地建設には735億円計上し、普天間基地の補修費も盛り込まれている。

戦争準備と大軍拡反対の闘いを強めよう。(中)

(1月6日記)

被災地とSNSリテラシー

被災地NGO 協働センター 顧問 村井雅清

今年には阪神・淡路大震災から30年を迎えるという重要な節目になる。また、昨年はあろうことが元日に能登半島地震が発生し、9月には二次被害となる水害にも見舞われ、大惨事となった。

この元日の地震からまもなくして、石川県知事が「ボランティアは、控えて」と発表したために、猫の手も借りたい被災地なのに、ボランティアの足は止まった。SNSでは、「行くな、行くな」のバッシングが情報を混乱

させた。「SNSで叩かれるので、ボランティアには行かない」という若者も少なくなかった。

ところで、昨年の都知事選および兵庫県知事選を挙目を向けると、いわゆる「SNS戦略」が当落を左右したことで注目された。「石丸旋風」という言葉に象徴されるように、東京都知事選では既

成政党からの候補者は苦戦した。さらに兵庫県知事選挙では、兵庫県議会から全会一致で不信任決議を突きつけられ失職した斎藤元彦が返り咲くという稀有な結果をもたらした。

この2つのSNSによって世間に与えた影響は通底していると思う。前者は、被災地の現状を正



村井雅清さん

「理解することができず、空気に左右されること。後者は、情報の多さに戸惑い、現実に向かっているのかを正しく判断できないこと。」

どちらにも共通する課題は、私たち一人ひとりが現実を見抜く「SNSリテラシー」を持つことだろう。

30年前に「ボランティア元年」を生んだ被災地を見て、「市民社会の萌芽」と絶賛されたことを忘れてはならない。

憲法を活かす1万人意見広告運動・兵庫

「総がかり行動兵庫実行委員会」が呼びかけ

戦争させない、9条壊すな！総がかり行動兵庫実行委員会は、5・3兵庫憲法集会とあわせ、「憲法を活かす1万人意見広告運動・兵庫」に取り組み。意見広告とは5月3日の神戸新聞朝刊に掲載。【取り組み方法】1口1000円の賛同金(団体については5口以上)で希望者の名前(団体名)を掲載(掲載は個人・団体に分けて50音順)。なお、団体については、「戦争させない、9条壊すな！5・3兵庫憲法集会」の賛同金を兼ねる。

◎集約日 第1次集約：3月31日(月) ◎振込先

郵便振替口座座称：総がかり行動兵庫実行委員会 口座番号：00995011275562

銀行振込 近畿労働金庫神戸支店 口座座称：総がかり行動兵庫実行委員会 口座番号：00000047

政府は年末の27日、2025年度予算案を閣議決定した。一般会計の歳出(支出)総額は115兆5415億円と当初予算ベースで過去最大を更新。不足を補うため新たな債を発行し、借金に依存する財政運営が続く(東京新聞)。

与野党は衆院で過半数割れしており、野党の協力が必要なければ予算は成立しない。国民民主の「年収103万円の壁」引き上

議会活動から

選択制夫婦別姓制度の導入を求める意見書を可決

青屋市議会議員 山口みさえ

兵庫県弁護士会より「選択制夫婦別姓制度の速やかな導入を求める意見書」採択に関する請願が、青屋市議会に提出され、昨年12月20日の最終本会議において可決された。

兵庫弁護士会より「選択制夫婦別姓制度の速やかな導入を求める意見書」採択に関する請願が、青屋市議会に提出され、昨年12月20日の最終本会議において可決された。民法第750条は、「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫または妻の氏を称する」と定め、夫婦同姓を義務付けている。この法の下に、現在でも95%の女性が婚姻に際して改姓し、アイデンティティの喪失に直面したり、仕事や研究等で築いた信用や評価を損なったりするなど様々な場面で不利益を被っている現実がある。

請願者の願意は、この夫婦同姓の義務付けをたんに不都合や不便ということではなく、人格権が侵害されている人権問題としてとらえ、選択的夫婦別姓制度を速やかに導入するよう国に意見書を提出してほしいという内容のもので、私は賛成討論に立った。



山口みさえさん

30年近く前から法整備が夫婦別姓制度の答申を出しても、国連の女性差別撤廃委員会から2003年から4度にわたって勧告されても、国が立法措置を採ることなく、具体的な検討さえしてこなかったこの国の政治の人権意識の低さ。女性の地位が今の日本の社会においては圧倒的に低位に置かれており、社会的に不利益を被る立場に立たされているのに、政治がその現実に向き合っていない。法は誰のためにあるのか。古い家族制度の観念や戸籍制度の在り方で不利益や差別を被る人たちの人権を取り戻す一歩として次世代につなぐ。

朝鮮人労働者の碑

(神戸市兵庫区会下山町)

日本の朝鮮植民地支配の時代、日本の道路や鉄道、港湾、河川などの産業基盤整備に大量の朝鮮人労働者が投入された。神戸電鉄の敷設工事もその1つで千数百人が動員

されたという。危険で過酷な重労働を強いられるなか、1927年からの10年間で5つの現場で13人が犠牲になっている。金城実さん制作のこの像は、犠牲者の追悼と日朝の友好と親善のために1996年11月に設置されたもので、神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会(当時の代表は落合重信さん、神戸史学会代表)によって建立された。神戸電鉄は、神戸市中

ひょうご 84 碑 物語

この工場の最大の事故は、1936年1月26日の藍那トンネルの崩落事故で、24歳から47歳の朝鮮人労働者6人が犠牲になった。(鍋島)

議会活動から

PFAS汚染水をめぐる市の不十分な対応を追及

西脇市議会議員 村井正信



村井正信さん

「週刊金曜日」を持参し、西脇市が高い数値であることが分かった。

そこで、「PFASって何？」から勉強を始め、その年の12月議会で汚染の原因究明や改善に向けて一般質問を行った。

PFAS汚染水をめぐる

市の不十分な対応を追及

2023年10月、知人が全国の水道水のPFAS汚染のことが掲載され

この時点では2022年の浄水の数値は34ナノグラム(以下、ng。1ngは1gの10億分の1)と発表されていたのでそれ以前の数値を尋ねると、2022年から調査し始めたとの答弁であった(2023年32ng、2024年38ng)。そして、2024年11月30日の水道水の全国調査結果で、西脇市

における2021年浄水の数値が100ngと新聞で報道され(原水では150ng)、前年の一般質問の答弁が嘘であったことが判明した。

私は12月議会の本会議場で、嘘の答弁について追及し、その理由を糺し

た。担当部長は「2022年から調査し始めたと思込んでいた」との答弁に終始した。また、長い期間にわたりPFASの混入した水を飲まされてきた住民に、健康状況調査のための血液検査を要求したが、2021年

王子公園再整備問題 行政訴訟は第3回期日へ

2・18



アスベスト飛散などについて住民が納得できる説明もなしに進められた王子公園の解体工事＝神戸市灘区

『王子公園・市民ミーティング』実行委員会(以下、『市民ミーティング』)は、2021年秋に明らかになった王子公園再整備計画問題に抗し、いま、『住民運動』と『行政訴訟』を、車の両輪として取り組みを続けている。王子公園内のプールや

スタジアムなどの諸施設には、解体時、飛散の恐れのある有害なアスベストが含まれており、周辺地域の住民をはじめ、保育園や児童館、小・中・高・大、特別養護老人ホーム等、子どもから高齢者まで多大な影響があるのではないかと懸念される。また、桜などの樹

木の保全、大気汚染、騒音、日影、風害、光害、温室効果ガス等、周辺環境への影響も危惧される。住民のこのような不安や疑問にこたえるよう、『市民ミーティング』はこの間再三、『住民説明会』の実施を神戸市に求め続けているが、十分な対応はない。

また、その一方で昨年8月、神戸市を相手に行政訴訟に踏み切った。その内容は、都市公園区域の変更処分を取り消しそのものを求めるもので、ハードルは決して低くはない。昨年10月の第1回期日では、『市民ミーティング』のメンバーである原告5人のうちの3人が意見陳述。12月の第2回

期日では、被告の神戸市は「都市計画運用指針第13版」をはじめとした19件にわたる「証拠説明書」をもとに書面で反論。次回第3回期日は、2月18日午前10時から神戸地裁で開かれる。たくさんの方の傍聴をお願いしたい。小林みず子(『王子公園・市民ミーティング』実行委員会・代表)



神戸電鉄の敷設工事に駆り出され犠牲になった朝鮮人労働者の追悼と日朝の友好・親善のために設置された、金城実氏作の像

【メモ】神戸電鉄・湊川駅から徒歩10分。神鉄東山トンネルを抜けた先の

会下山公園の北側斜面にある。

介護保険めぐり 神戸市に再度の要望申入れ

安心と笑顔の社会保障ネットワーク



心ネット)は12月16日、前年に続き神戸市介護保険課に介護保険をめぐり要望書を提出したが(写真)、今年7月に届いた回答書は、要望書とともに提出したアンケートに記載された現場の低賃金や介護職員の流出などの実情(への面談で集約したアンケート)を踏まえたもので、報酬引き下げで「心が折れた」と廃業した事業所の話も聞いた。加算申請の大幅な書類づくりで本業の訪問

介護に支障もある。ぜひとも介護現場の悲痛な実態にもとづく改善を」と怒りと危機感を訴えた。安心ネットは、昨夏からユニオンたるみ、熟年者ユニオンとともに灘区と垂水区の全訪問介護事業所、兵庫区、長田区、須磨区の一部の事業所を訪ね、面談でアンケートを集めた。アンケートは「行政は現場のことなんか何も分かっていない」「経営難で事業所閉鎖になりかねない」「3年後の報酬改定までに財政支援を」「募集しても人が集まらない。時給を上げると経営が持たない」という苦悩や怒りの声ばかり。

今回の要望書は、介護報酬引き下げの撤回など8項目の要望だ。昨年の介護職員の実態調査などの要望に加え、加算申請の煩雑な書類づくりへの市の支援実施や要介護高齢者の処遇困難ケースには市が直接対応できる公的な介護職員の配置の検討なども新たに求めた。神戸市の回答書は、従来通り、「コウベドカイゴ」で十分対応できるとするだけだった。

安心ネットは、要望書をもとに、2月には神戸市会での陳情・請願に取り組みを確認している。

安心ネットは、要望書をもとに、2月には神戸市会での陳情・請願に取り組みを確認している。

(菊地憲之)

1500人が怒りの結集

県知事選の真相究明県民集会

異例の結果となった兵庫県知事選挙をめぐっては、選挙後も公職選挙法違反、SNSによる誹謗・中傷での名誉棄損、個人への脅迫などに対する告発・告訴が相次いでいるが、知事陣営側の一連の不正・違法行為などの疑惑について、その真相究明を求める集会が12月22日、神戸市教育会館で開かれた。

「兵庫県知事選挙に異議あり！真相究明県民集会」と名付けられた集会には、選挙戦で見られた民主主義への挑戦といえる行為への怒りや危機感を持つ人たちが多く集まり、主催者側が急ぎよ追加した予備の会場にも入りきれない人が続出。館外には長蛇の列ができる約1500人が集まり、どうにか会場に入れたのは約600人だった。

集会では、百条委員会メンバーの上野ひでかず県議やいなむら和美選対に関わったつづき徳昭尼崎市議、稲村さんを応援したあわはら富夫神戸市議やよつや薫西宮市議らがそれぞれの立場から次々と発言し、多くの問題提起を行った。ジャーナリストの西谷文和さんや望月衣望子さんからの発言もあった。

内部告発に対する知事の違法な対応への批判や個人情報漏えいを行った県幹部の責任が強く追及されたほか、かつてない手法で選挙という民主主義や人権が深刻に脅かされていることに対し、



主催者側が用意した3つの会場にも入り切れず道路にも長蛇の列ができる中で開かれた県民集会＝24年12月22日、神戸市中央区

公選法の改正や、選挙におけるSNSの暴走への何らかの対処などによって民主主義と人権を守らなければならないことなどが強調された。

左派・リベラルの結集を 共同テーブル近畿が集会

共同テーブル近畿の呼びかけによる「左派・リベラルの結集をめざす市民の集い」が12月21日、大阪市内で開催され、25年7月の参院選に向けて民主党をはじめ護憲勢力の前進めざす協力・共同の取り組みの強化が誓い合われた。

集会では、額厚さん（山口大学名誉教授）と木戸衛一さん（大阪大学招へい教授）の2人から問題提起を受けて討論が行われた。

「護憲勢力再結集の方途をめぐって」のテーマで講演した額厚さんは、「『非武装中立・非同盟』政策の実現、生存権の実体化を求める運動を中軸とした市民・労働運動の展開が求められている」と強調。

木戸さんは「国民ひとりひとりが主権者意識を持つよう取り組むことが大事。若い人も年寄りも集うことができる交流の場づくりを。そのためにも集える平屋の事務所を」と訴え、「民主党や新社会党、れいわなどが垣根を超えたプラットフォームづくりはできないか」などと呼びかけた。



額厚さんと木戸衛一さんの2人からテーマに沿った問題提起を受けた＝24年12月21日、大阪市

参加者を交えた討論では、「ドイツやフランスでも若者の貧困が問題になっている。ドイツでは6人に1人が貧困層とされている。これは権力側からの収奪の結果であり、ドロボー政治だ。同じことがこの国でも顕著になっている」、「総選挙の結果は、総保守化への動きを一段と強めた。このままでは、市民や共産などが『革新』と言われた勢力が弱体化していくばかりだ」などの発言が続いた。

民主党に対しては、「ありきたりの選挙スロガンでは注目されない。平和や人権、平等について具体的な文言のアピールを」、「非暴力・平和を基軸とする野党外交に取り組んでほしい」などの意見が出された。

共同テーブル近畿では、民主党や護憲勢力総体が崖っぷちに追い込まれていることを自覚し、世代間交流やSNS対策などから具体化していくことにしている。（鍋島）

地域ユニオン あちこちあれこれ

ユニオンあしやポトデリカトオカツ分会は、パート職員の冬の一時金をめぐり昨年暮れ、2回の団体交渉を行ったが、

会社は「予算難しい」を繰り返すばかりで、会社利益によりプラスされる「貢献加算額」は「0回答」に終始した。

ユニオンは、パート職員がこれまで

P分会のパート職員の冬一時金闘争

会社の経営が赤字に陥った際、「貢献加算0円」を苦渋の思いで受け入れ、会社のために働いてきたことなどを強く訴えてきた（食品会社なのに以前

を一方的に宣言してきた。ユニオンあしやは12月6日、ひょうごユニオン、兵庫県パートユニオンネットと共に「抗議申し入れ書」を会社玄関口（社

内進入拒否のため）で担当管理職に手渡し、ひょうごユニオンの岡崎進委員長から「パートの人たちの働きで会社は利益を得ている。増額回答の再考を。県下のユニオンは共に闘う」と申し入れた。しかし全く誠意のない回答で、しかも、申し入れ当日、組合掲示板に掲示した組合ニュースを一方

側は2階から窓越しにスマホで写真撮影。前記共同団体の申し入れで、「500円」の回答も一時はあったが、物価高騰のこの時期、到底納得することはできない。

12月27日の経団連発表によると、大企業の冬ボーナスは92・5万円。ポトデリカトオカツのパート職員の「貢献加算額を除く一時金は1・3万円」3・45万円、この額などは一時金ではなく、「寸志」とも言えない額だ。

総本山の（株）日清製粉グループ本社は、世界に冠たるグローバル企業で利益も莫大だ。

このたたかいは、格差是正の意味をも持ったたたかいであり、たたかいは輪を広げ、本年もねばり強く闘っていく決意を固めている。

大野克美（ユニオンあしや副委員長）

謹賀新年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

異常気象の影響が顕著になった昨年。びいぶるが長年お付き合いを続けている生産者の皆さんにとって、厳しい状況を目の当たりにした年でした。それは、そのままお客様にご負担をお願いすることにつながり、心苦しさを抱えて過してまいりました。本年もすでに再値上げの動きになっています。何卒ご理解とご了承をお願い致します。



でかんしょ米 (小多田屋米穀店)

※ささや米の変更はありません

1月配達分からの価格改定について
5kg / 3,300円 3kg / 1,980円

白米5kg / 3,100円
玄米5kg / 2,950円

(有)びいぶる
電話/ファックス 078(531)0135



おんなの目

1995年1月17日午前5時46分、わずか数十秒の揺れで、6434人の尊い命が奪われ、多くの人の生活基盤が奪われた阪神・淡路大震災。私が居住する灘区も大変な被害に遭った。幸い我が家はスレート屋根で覆われている住宅だったこともあり、一部損壊に留まった。その日の夜、余震が続く中、いつとも飛び出せるように靴を履いたまま過した。

次の日、私は自転車で灘区の被害の大きかった南部地域へと向かった。家が潰れ、道という道が無くなり、水道管から水が溢れ出し、ガスの臭いが漂う中を自転車を押しながら「これは夢なんだろうか、現実なんだろうか」と、涙を抑えることができなかった。

活動の原動力は「震災」、そして「ユニオン」。震災後の6月に延期された統一自治体選挙で落選した後、「何かしなければ……」と突き動かされた。自然に足が向いたのが、「被災労働者ユニオン」(黒崎隆雄委員長)だった。

国に公的支援を求めて何度も夜行バスに乗って国会へ。時には日比谷公園内に野宿も。東京と神戸、その「温度差」を感じながらも公的支援を求め続けた。数年後、多くの被災者の声が届き、

初めての市民議員立法「被災者生活再建支援法」が成立した。

ユニオンは、被災者の「労働・生活実態調査」に取り組み、仮設住宅も訪問した。当時、仮設住宅は、神戸市内だけでなく、東は大阪のりんくうタウン、西は岡山県まで、広範囲に存在した。調査結果で、震災後、被災者

王子公園(灘区)も例外ではない。震災の日の朝、災害救助のためのヘリコプターが被災地に着陸しようとしたが、どの公園にも住民が避難しており、着陸できない状態だった。唯一、王子公園内の動物園とスタジアムが施設されており住民が入れなかったために着陸できるスペースがあった。

平時時、市民の憩いの場としての公園は、緊急時には避難所・防災拠点・仮設住宅用地として機能するオープンスペースとしての確保が必要なることを私たちは30年前の経験から学んだ。

確保すべき公園の防災機能

この3年間、市民とともに取り組んできた王子公園再整備計画問題。王子公園内のスタジアム3・5号を売却して関西学院大学を誘致する。スタジアム北側のサブグラウンドには立体駐車場が建設される。その結果、王子公園内のオープンスペースが無くなり、王子公園の防災公園としての機能は一気に落ちる。災害が続く昨今、阪神・淡路大震災で、王子公園の状況を見てきた周辺住民には、30年前の教訓が活かされていない今回の神戸市の一方的な計画は到底受け入れられるものではない。(小林るみ子)

「デ」は、樹木や公園が延焼を防いだという大園公園(長田区)で……同メーデーは20回続いた。問われた「緑」と「公園」の役割

王子公園(灘区)も例外ではない。震災の日の朝、災害救助のためのヘリコプターが被災地に着陸しようとしたが、どの公園にも住民が避難しており、着陸できない状態だった。唯一、王子公園内の動物園とスタジアムが施設されており住民が入れなかったために着陸できるスペースがあった。

平時時、市民の憩いの場としての公園は、緊急時には避難所・防災拠点・仮設住宅用地として機能するオープンスペースとしての確保が必要なることを私たちは30年前の経験から学んだ。

この3年間、市民とともに取り組んできた王子公園再整備計画問題。王子公園内のスタジアム3・5号を売却して関西学院大学を誘致する。スタジアム北側のサブグラウンドには立体駐車場が建設される。その結果、王子公園内のオープンスペースが無くなり、王子公園の防災公園としての機能は一気に落ちる。災害が続く昨今、阪神・淡路大震災で、王子公園の状況を見てきた周辺住民には、30年前の教訓が活かされていない今回の神戸市の一方的な計画は到底受け入れられるものではない。(小林るみ子)

働く者と地域とつながった「被災地メーデー」96年の「第1回 ゆめたちあがれ 被災地メーデー」は、仮設住宅が立ち並ぶ若松公園(長田区)で。97年の「第2回 ゆめひろがれ 被災地メーデー」は、樹木や公園が延焼を防いだという大園公園(長田区)で……同メーデーは20回続いた。問われた「緑」と「公園」の役割

『8がけ社会』消える労働者 朽ちるインフラ

朝日新聞取材班著／朝日新書／990円(税込み)

朝日新聞は2024年元旦号より1月14日まで8回に分けて「8がけ社会」を連載した。日本の高齢化率が35%に迫る2040年、働き手の中心となる現役世代(生産年齢人口の15〜64歳)は今の2割近くの1200万人も減る。働き手が8割になるという時代を、朝日新聞は「8がけ社会」と名付けた。本書はその連載をもとに24年9月に出版されたのであるが、新年早々のこの連載に大いに関心をもち、本書出版後も直ぐに読むことにした。

付け加えるなら、この連載は、リクルートワークス研究所が2023年3月に発表した報告書「未来予測2040・労働供給制約社会がやってくる」に依拠している。この報告書は、「2040年に全国で2割近い働き手が減り、医療や介護、建設など様々な分野で現

行水準のサービスが受けられなくなる恐れがある」と警告している。本書の読後感を述べると、実に深刻な時代を迎えるだろうということが理解できる。2040年にそうなるのではなく、すでにわれわれの足元では深刻な事態が進行していることが認識できる。

働き手が8割になる深刻な事態

予想される事態とは、働き手が地方から消え生活維持サービスが成り立たない、私たちが意識せずに受けてきた「必要不可欠な仕事」の担い手がなくなることである。突き付けられているのは、制度や予算があっても働き手がいなければ機能しない「新しい現実」である。さらに悩ましいのは、社会がこの困難を認識しているにもかかわらず、解決となる答えを誰も示していないことである。もちろん、部分的・個別的提案はあるのだが、

リクルートワークス報告書で人手不足が全国で最も深刻なレベルになるとされた新潟県では、①年末の12月にもかかわらず食品製造会社のベルトコンベアは速度を落とされている。②人材派遣会社を回しても派遣社員が集まらない。③新潟市のハローワークでは人材を奪い合っている。ハローワーク管内の有効求人倍率は、介護職4.24倍、運転士など輸送関連4.67倍、建設業8.56倍にもなる。④新潟市の水道局では水道管の修繕工事の落札

者が見つからない。深夜作業は人手が集まらないからだという。労働力の奪い合いでエッセンシャルワーカーの人手不足が急速に深刻化している。しかし、これらの光景は全国どの地域にもあることだと容易に想像できる。では、どうしたらこの事態を乗り越えることが出来るのか。本書にはいくつかの提案を持つ専門家の意見を紹介している。可能な限りロボットの導入を進めようという人、特に地方では海外に人材を求める人、サービスの取捨選択とトリアージを主張する人などである。非民主主義国なら強権的に「適正な労働力配置」を可能にするだろうが、この国では不可能である。

実際に深刻で困難な問題であるが、本書にあるこの声に学びたい。「注文して翌日に届く通販サービスは本当に必要か。私はいらないと思う。人間が少ないというよりも、市場にゆがみがある。賃金が安すぎるから、特定の職業で人手が不足する。介護や家事労働に対する評価が低すぎる。報酬の決まり方がまずいのである。」(金平博)

本棚

正体

今、旬の俳優・横浜流星が5つの顔を持つ逃亡犯という難役を演じるサスペンス映画である。一家3人が惨殺されるという日本中を震撼させた凶悪な殺人事件が発端。その容疑者として逮捕されたのが高校3年生の錦木(横浜流星)だった。犯行現場で凶器を手

にしたまま逮捕された上に、生存者の目撃証言もあり、有罪は疑いないと思われていた。そして未成年者犯罪厳罰化の流れの中で、死刑判決を受け収監されていた。その錦木が刑務所で舌を噛み切り自殺を図るも、救急車で運ばれる途中で逃走したのだ。事件を担当していた警視庁の刑事・又貴(山田孝之)が彼の行方を追うものの、錦木は変装し仕事を替えて、間一髪のところ

木が逃走した目的が明らかになっていく。彼の正体とは？そして顔を変えながら日本を縦断する錦木の真の目的とは？

東洋新聞記者・望月衣塑子のベストセラーを原案に映画化した「新聞記者」また「余命10年」(2022年公開)が興行収入30億円を超える社会現象を巻き起こし、最新作「青春18×2君へと続く道」が日本のみならず現在、アジア各国で大ヒットを記録中の藤井道人監督が手掛けている。



グは長編では今回で3回目となる。横浜にとってもクラシックインまでの約3年もの間、藤井監督とやがやらねばならない目的を果たすためには手段を選ばない一方で、周りの

の主演にも抜擢されるなど、今や飛ぶ鳥を落とす勢いの活躍を見せる横浜流星。藤井監督とのタッグ

選ばない一方で、周りのグは長編では今回で3回目となる。横浜にとってもクラシックインまでの約3年もの間、藤井監督とやがやらねばならない目的を果たすためには手段を選ばない一方で、周りの

シネマランド

逃走した死刑囚が持つ5つの顔の裏には……

監督 藤井道人 / 2024年 / 日本 / 120分